

市長の不信任決議案

反対討論した議員も “趣旨には賛成”

9月議会最終日。日本共産党議員団は中川市長の不信任決議案を提出しました。

提案理由を説明した上野公悦団長は、一連の不適切発言についてふれたうえで、「これまでの不適切な発言を行なったことに関して本質的な反省や行動の刷新が全くなく、物事に対して歪んだ見方をしていること、発言に関係する相手方の人権や人間的価値を尊重するという人間として最低限必要な態度が身についていないこと、自らの発言の影響力を顧みず発言における慎重さが体得できていない。（中略）市政に責任を負う市長としての資質には決定的に欠ける」とのべました。

反対討論に立ち、「不信任決議案の趣旨、案文に異論はない。しかし、いま不信任決議が可決された場合、決算認定をはじめ、市民生活に影響を及ぼす補正予算などの採決が行われないまま閉会となってしまう恐れがある。市長の一連の発言と政治姿勢は十分不信任に値するものだが、市政の空白を生むことは許されない」などのべました。

しかし、決算は認定されなくても効力を失うものではありません。そして市民の暮らしがかかっている補正予算が採決できなくても、行政当局が重要だと認識しているなら、専断処分もでき、市民生活に重大な影響を与えることにはなりません。理解できない反対討論でした。

賛成討論には日本共産党議員団の平良木議員が立ちました。同議員は、「何度にもわたって市民の信頼を裏切るような不適切発言を繰り返す方には、17万市民の頂点に立つ市長という重責を担っていただくわけにはいきません」とのべたうえで、「任期切れでの退職と不信任決議での辞職では意味が異なるものだ。任期切れでの退職では、市民に対する責任が曖昧なまま、うやむやになってしまいかねない。この議会において不信任を議決することこそが何よりも重要だ」と訴えました。

採決は無記名投票で行われ、残念ながら賛成10、反対22で市長不信任決議案は否決されました。

松代病院の無床診療所化 医師等のスタッフも反対

県病院局は9月28日、「松代病院の入院機能の十日町病院への統合（無床診療所化）に関する説明会」を松代、松之山で開催しました。

このうち松代会場では、病院局が、「小規模病院として限界があること、医療スタッフの確保が厳しいこと、入院患者が減っていること」を改めて強調し、無床診療所化として存続させることの「必要性」を訴えました。しかし、参加者の多くが注目していた松代病院のスタッフがどうなるかについては今回も具体的に明らかにしませんでした。労働者側との協議で合意できなかったようです。

会では、「今回の無床診療所化に反対する署名が松代、松之山地域で7割にも及んでいる。やめるべきだ」「十日町病院の看護師も定員を大きく割り込んでいる。新方針で新たな人員の必要があるが、その点、考慮されていない」「入院機能があるから外来だけでなく訪問診療もできている。（方針を強行するなら）私は抗議して医師を辞職する」「地域住民からも病院スタッフからも支持されない方針を進めるのはおかしい」などの声が相次ぎました。（右上イラストはその時の様子）

説明会はまるで無床診療所化反対集会の様でした。



このところコウノトリの姿を毎日のように見かけます。稲刈りの終わった田んぼや畔、農道にいます。上の写真は日向ぼっこしながら羽づくろいをしているペアです。写真は30日、吉川区内で撮ったものです。



【キンミズヒキ】（再掲）バラ科の多年草。漢字で「金水引」。親戚の叔父がこの草を乾燥させて、煎じて飲めば「がん」に効くと言っていました。それで、山に入るとこの花を見かけると叔父を思い出します。花期は8月から10月で、黄色い花を咲かせます。花言葉は「感謝の気持ち」「しがみつく」など。写真は24日、吉川区町田にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2222 2025.10.5

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八六九回 感動のフェスタ

やはり、ドラマが待っていました。先週行われた県立吉川高等特別支援学校の「ドリームフェスタ」のことです。

この「ドリームフェスタ」(同校の文化祭)については、案内文書を見た時に参加したいと思っていたのですが、肝心の当日は、コウノトリの巣をめぐる対応策を探るため、ある業者さんと現場視察をやっていた失念していました。

現場での検討が終わろうとしていたとき、同校のある職員さんから「今日は学校行事で出勤しています。いま、学校下の田んぼに二羽います」というメールがコウノトリの写真とともに送られてきたのです。

このメールで「しまった。きょうは文化祭だった」と気づいたのです。でも、コウノトリは六日間見かけていませんでしたので、まずは大急ぎで田んぼへ行きました。田んぼでコウノトリの親鳥夫婦と一緒にエサを食べている様子を何枚か写真に撮り、学校に向かいました。

時間はすでに一〇時を回っていました。展示してあるすべての教室をまわる余裕はありませんでしたので、数年前の「ドリームフェスタ」で懐かしい写真を見つけた地域交流室へまっすぐ向かいました。

地域交流室では生徒の保護者と思われる人たちが生徒たちの手作りの作品や作業中の生徒たちの写真に見入っていました。

この日、私の目に飛び込んできたのは、漫画家・尾瀬あきらさんの色紙です。ベストセラーとなった漫画『夏子の酒』の主人公、夏子の横顔を描いたものが二種類ありました。このうちの一枚は私が尾瀬あきらさんからいただいた色紙と同じ構図です。

私が所有していた色紙は牛舎の解体時に紛失してしまっていましたので、とても懐かしく思いました。同時に、『夏子の酒』の中で紹介された吉川高校の『若泉』という酒を最後に見たのは「ニュー信濃」とい

うお店だったことなどを思い出しました。

尾瀬あきらさんの色紙と久しぶりに出合っただけでもうれしかったのですが、フェスタの後半の最終場面でさらにうれしくなることが起きました。

校内放送で、「エンディングのダンスが体育館で行われますよ」という案内が流れたのですが、私が会場に行った時はすでに始まる直前でした。

一礼して会場に入ると正面に元校長の井部先生の姿が見えました。そして後ろの方へ目を移すと、初代校長の赤松先生もおられましたし、更に体育館の奥には同校の第一回目の卒業生が何人もいたのです。退職しても、卒業してもフェスタにやってくる人たちがいるって、素敵じゃありませんか。それだけ、みんなが同校のことを思っているんですね。

ダンスには二十数名の生徒たちが参加しました。指導している米山先生がマイクを握って見学者にも参加を呼びかけました。

こういうときにはなかなか前に出れないものですが、一人の女性が椅子から立ち上がり、「冥途(めいど)の土産に踊ってみるか」と言って、生徒たちの脇の方から舞台前に進みました。すると、米山先生の視線が今度は体育館の最後部にいた第一回卒業生のところに向き、「吉田君、前に来て」と声をかけました。彼が躊躇(ちゅうちよ)していたら、同級生が彼の腕を抱え、前に出ていきました。

そしてダンスが始まりました。曲はDAMP(ダパンプ)の「U.S.A」です。躍動する生徒たち、中でも最前列の女子生徒の乗りが最高で、「カモン、ベイビーアメリカ」に合わせて体を斜め後ろにそらせる姿勢がきれいでした。そして、「冥途の土産」の女性も吉田さんもステーションの一番後ろで体をくねらせています。体育館全体が感動に包まれました。

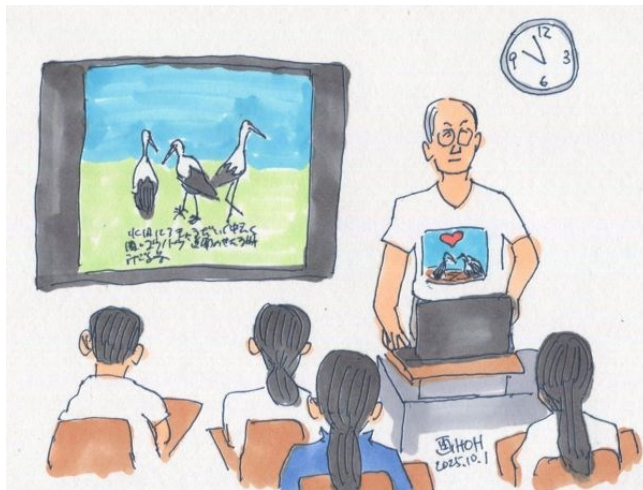
吉川中学校でコウノトリの特別授業

20数年ぶりでしょうか、1日、吉川中学校2年生の教室で「コウノトリから学んだこと」というタイトルで特別授業をさせていただきました。

冒頭、今年、吉川区の電柱から巣立った3羽の子どもたちが9月上旬、北海道にいたこと、1日当たりの飛行距離は300キロにも及ぶこと、そして親鳥のペアは当日の朝、中学校から500mほどの田んぼにいたことなどを伝えました。

続いてコウノトリが1971年、兵庫県豊岡市にいた鳥を最後に日本の在来種が絶滅し、旧ソ連からの導入で復活を目指して今日に至っていること、肉食系の鳥であることなどについて紹介しました。

その上で、昨年から今年にかけて撮り続けてきた動画や静止画像を使って、私が今年のコウノトリの観察から学んだことを、①雪の日も雨の日も風の日も卵を温め、ヒナたちを守り、育ててきたこ



と、②コウノトリ同士の武器なき戦いが繰り返されたこと、③メス(母親)の強い愛情を感じたこと、④コウノトリと共生できるようにするためには有機農業、環境保全型農業を深化させ、広めることが大切であることの4点にまとめ語りました。

生徒のみなさんは、動画でのカエルを呑み込む様子などをじっと見入り、私の話を聴いてくれました。今回の授業がコウノトリへの関心を高めることにつながってくれるとうれしいです。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月24日(水)	10月1日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.043	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.057	0.036
名立分遣所	0.063	0.050
高士分遣所	0.050	0.053